

別記  
第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

令和8年2月28日

コミュニティ名 宮津市小学校学習づくり研究会  
代表者所属名 宮津市立宮津小学校  
代表者職・氏名 教諭 吉岡 龍汰

京都府若手教職員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 コミュニティ名

宮津市小学校学習づくり研究会

2 研究テーマ

学びの本質を見極め、「学び手」として児童を伸ばす。

3 研究の目的

- ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的にすすめる学習の具現化
- ・児童が「学び手」として育つ学級経営、学習づくりの具現化

4 研究の成果と課題

先進校の実践を自校の実践とつなぎ、個別最適な学びと協働的な学びを一体的にすすめる学習を具現化することにより、日々の実践の中で、児童生徒を「学び手」としてさらに伸ばすことができた。令和の教育実践の在り方を理解し、具体的な教育実践を通して、少しずつではあるが認識の変化がある。

5 研究成果の波及方法

実践交流会を実施（①夏季休業中、②6月、③7月、④11月）  
校長会・教頭会等での報告

## 6 研究（活動）実績\*

年月日	研究（活動）内容（具体的に記入）	活動場所
9月 16日	授業参観・交流	吉津小学校
10月 22日	授業参観・実践交流	吉津小学校
11月 27日	授業参観・実践交流	宮津小学校
1月 20日	授業参観・実践交流	宮津小学校
	※随時、Teams等での交流 各校での実践・検証	
令和8年2月13日	奈良女子大学附属小学校研究大会参加	奈良女子大学附属小学校

## 7 予算執行状況

- (1) 旅費は、旅費執行状況報告書に記載のとおり
- (2) 図書については、受領書のとおり

## 8 他校へ勧めたい実践又は他校へ呼びかけたい共同研究（できるだけ具体的に）

テーマ	学びの本質を見極め、「学び手」として児童を伸ばす
育てたい資質能力	◎主体的に学びに向かう力
実践又は研究の 具体的内容	<p>研究に当たっては、①安心して学びに向かうことのできる学級風土の醸成、②児童の問いや選択を生かした学習デザインの工夫、③児童の学びを支えるファシリテーターとしての教師の役割の明確化、の三点を柱として取り組んだ。具体的には、「何のために学ぶのか」といった本質的な問いを重視し、児童が自ら課題を設定し、他者や教材と関わりながら学習を展開できるよう授業を構想・実践した。その結果、学習に対する主体的な関与が高まり、「やらされる学習」から「自己の課題として取り組む学習」への変容が見られた。また、教師は児童の思考や表現を的確に見取り、それらをつなぐとともに、学びの環境を整備することで、学習を支援する役割を担うことの重要性が明らかとなった。以上のことから、児童に学びの主導権を委ねることが、主体的な学びを促進し、学習内容の自分事化につながるようになってきた。</p>